



日本私立歯科大学協会広報

第 89 号
令和 7 年 3 月

目 次

〈巻頭言〉

私学の苦節は厳たり徹れり

東京歯科大学 副学長 片倉 朗…………… 2

〈大学のニュース〉

○北海道医療大学歯学部

・令和 6 年度大学祭「第 44 回九十九祭」を開催しました… 4

・生理用ナプキンの無料提供サービス「toreluna」を導入しました…………… 4

・創立 50 周年記念講演会を開催しました…………… 4

・本学情報センターで開発した「クラフト AI」が、e ラーニングアワードの「文部科学大臣賞」および IEdTech Japan の「特別賞」をダブル受賞しました… 4

○岩手医科大学歯学部

・学校法人岩手医科大学大学葬…………… 5

・お別れの会…………… 5

・オープンキャンパス 2024 が開催されました…………… 6

・ウェルカム 2024 が行われました…………… 6

○奥羽大学歯学部

・オープンキャンパス…………… 6

・歯学部学生が郡山市バドミントン大会で入賞…………… 7

・TOEIC 高得点インタビュー 歯学部 3 年生 横こなさん… 7

・県中地域市町村歯科保健強化推進研修会での鈴木史彦教授による講演…………… 7

○明海大学歯学部

・保健医療学部口腔保健学科が「ホワイトコートセレモニー」を開催しました…………… 8

・シエナ大学（イタリア）の学生らが坂戸・浦安キャンパスを訪問しました…………… 8

・明海大学歯学部優秀論文賞授賞式（坂戸キャンパス）を行いました…………… 9

・歯学部海外研修 アラバマ大学、空軍軍医大学…………… 9

○東京歯科大学

・2024 年度解剖諸霊位供養法会執行…………… 10

・東京歯科大学研究プロジェクト（ウェルビーイングプロジェクト）共催シンポジウム開催…………… 10

・The 3rd "Silk Road Cup" International Clinical Skills Exchange Event for Dental Students に参加…………… 11

○昭和大学歯学部

・鷺沼キャンパス整備工事地鎮祭…………… 12

・富士吉田キャンパス新実習棟建設工事地鎮祭…………… 13

・北京大学口腔医学院との学部間協定更新…………… 13

○日本大学歯学部

・既卒生に対する国家試験合格支援活動について…………… 14

○日本大学松戸歯学部

・本学部 2 年次生が SCRP 日本代表選抜大会で優勝…………… 14

・国際歯科研究会日本部会（JADR）総会・学術大会で Morita Student Award を受賞…………… 14

○日本歯科大学生命歯学部・日本歯科大学新潟生命歯学部

・歯科と認知症研修講座開催－新潟は道川教授、東京は菊谷教授－…………… 15

・姉妹校交換学生－派遣と受入れの総計 451 名に－…………… 15

○日本歯科大学生命歯学部

・ギネス渡邊悦郎先生内閣府よりエイジレス章受く…………… 16

・倉池講師 受賞…………… 16

○日本歯科大学新潟生命歯学部

・ハノシゴトフェスティバル 3 回目の開催－新潟県内の小中高生が参加して－…………… 16

○神奈川県歯科大学

・「ピンクリボンライトアップ 2024 in かながわ」に参加…………… 17

・KDU キャンパスセンターが「The Architecture MasterPrize2024」受賞作品に…………… 17

・横須賀ロータリークラブ主催「ポリオ根絶募金活動」に参加…………… 17

・世界の「デンタルドール」寄贈展示…………… 18

○鶴見大学歯学部

・歯学部附属病院 夜間火災想定消防訓練…………… 18

・塩崎一成准教授 第 37 回一般社団法人日本顎関節学会ポスター賞を受賞…………… 18

・戸田（徳山）麗子講師 第 78 回 NPO 法人日本口腔科学会学術集会優秀ポスター賞を受賞…………… 19

・能登半島地震におけるボランティア活動報告…………… 19

○松本歯科大学

・中国 河北医科大学で学生が臨床実習…………… 20

・Work is Life－仕事を通じて成長を実感－…………… 21

・「よく噛んでおいしく健康に」歯の健康と全身の健康をつなぐ市民フォーラム…………… 21

・元宝ジュンヌの朱紫令真さんが特別講義 伝わるコミュニケーション力を指導…………… 21

○朝日大学歯学部

・岐阜県の教育・学術振興に尽力…………… 22

・日本歯科理工学会・学会賞を受賞…………… 22

・無償医療援助活動に参加…………… 22

○愛知学院大学歯学部

・歯学部 3 年生・健康栄養学科 4 年生合同 IPE (Interprofessional Education 多職種連携教育) が開催されました…………… 23

・医療系学科 1 年生合同の IPE (Interprofessional Education 多職種連携教育) が開催されました…………… 23

・令和 6 年度第 62 回解剖慰霊祭及び返骨式」が執り行われました…………… 24

・木村学長と歯学部 前田教授・近藤教授が城内 実大臣（経済安全保障担当・内閣府特命担当）と会談いたしました…………… 24

○大阪歯科大学

・AMED 令和 5 年度「優れた医療機器の創出に係る産業振興拠点強化事業」に採択…………… 24

・東大阪市等と包括連携協定を締結しました…………… 25

・岩崎剣吾准教授が Asian Pacific Society of Periodontology Meeting で "First Prize" を受賞！…………… 26

・歯学研究科 2 年生が JADR/GC 学術奨励賞を受賞しました…………… 26

○福岡歯科大学

・福岡歯科大学学生研究支援プログラム

リサーチ・スチューデントが決定…………… 27

・福岡歯科大学医科歯科総合病院が各種イベントで無料口腔検診などを実施…………… 27

・福岡市立高等学校を対象としたキャンパスツアーを開催…………… 27

・学校法人福岡学園 開学記念式典を挙行…………… 28

〈事業概要〉

○総会…………… 29

○理事会…………… 31

○部会・委員会…………… 34

○事務局長会議…………… 34

○研修会…………… 35

○第 15 回歯科プレスセミナー…………… 37

〈日本私立歯科大学協会関係の諸会議〉

○第 50 回全国私立歯科大学・歯学部附属病院看護部長会…………… 38

○第 28 回日本私立歯科大学・歯学部附属病院歯科技工士協議会…………… 38

〈叙勲〉…………… 39

〈計報〉…………… 39

〈人事異動消息〉…………… 39

〈第 56 回全日本歯科学生総合体育大会の成績表〉…………… 44

〈協会役員・部会・委員会名簿〉…………… 47

〈賛助会員企業紹介〉…………… 51

〈一般社団法人 日本私立歯科大学協会加盟名簿〉…………… 52

〈編集後記〉…………… 52

巻頭言

私学の苦節は厳たり徹れり

東京歯科大学 副学長
片倉 朗

本協会に御所属の各大学は、改正が行われた私立学校法に基づいた新たな体制を構築してその運営に臨んでいることと思います。私学法の改正に伴って学校法人の理事会・評議員会の改編や関連する規定等の変更も必要となり、各大学の教職員の皆様はその準備に時間を費やされたことと思います。改正は理事会制度の改善、監事制度の改善、評議員会の改善、情報公開の促進の4点を柱としています。具体的には理事会の設置や監事の選任、評議員会への付議事項、財務資料の利害関係者への閲覧について重点が置かれています。

このように私立学校の運営に対して文部科学省から民間企業に準じた客観的なガバナンスコードが求められましたが、私立大学は「学校を創って人を育てたい」という創設者の想いとその想いに共感した人々の支援によって設立され運営されてきました。私立大学は学部を問わ

ず、独自の建学の精神に基づいて個性豊かな教育や研究を展開し、多様な人材の育成への貢献、社会貢献、地域貢献をその役目として担っています。「個性豊かな教育や研究」ということは教育内容や方略の自由度が高いと言えます。すなわち、建学の精神や大学が掲げる3ポリシーを、意図をもって積極的に教育に反映できる環境にあると考えます。このような私立大学ですが、歯学部においては人材の育成、社会貢献、地域貢献という観点では歯科医師法を鑑みると「歯科医師を育成して、その人材が歯科医療と保健指導をつかさどることで、公衆衛生の向上と増進に寄与して、その結果として国民の健康な生活を確保する」というきわめて具体的に明確な目的と役目を担っていることとなります。一般の大学、また医学部と比べても小さいストライクゾーンで勝負しなければならない環境で教育や研究を展開する学部であると言え

ます。私立歯科大学は、入学希望者の減少傾向や歯科医師国家試験の合格者数など本協会でも議論されている様々な問題を抱えていることは否めません。医療者として倫理観の陶冶のためにリベラルアーツ教育もこれまで以上に重要な時代となっています。本学でもそれらはもちろんのことですが、学生の社会常識や倫理観の変化、教職員の就労環境整備や大学のコンプライアンスなど社会情勢に追従して解決しなければならない課題も日々生じています。

本学の校歌は約 100 年前の 1927 年に北原白秋氏の作詞で作られました。その中で建学の祖である血脇守之助先生による『歯科医師たる前に人間たれ』という理念は「医はこれ済生、ひとえに仁なり」という詞に置きかわり 4 回繰り返されます。さらに「国手の精神、窮理の治法」、「私学の苦節は厳たり徹れり」という詞も謳われています。本学の校歌には医療倫理の実践を大前提として、私立学校での歯学教育の目的達成とその継続性、さらに国民に歯科医療を通じて貢献するという強い意志表示がされています。本稿を書いている 3 月、4 月は自らも校歌を発する機会が多い時期です。大学運営の一翼を担う立場として校歌を歌うたびに 100 年前にこの時代を予測したかのような詞に叱咤激励されているように感じています。

「私学の苦節は厳たり徹れり」、私立歯科大学は社会情勢に見合ったコンプライアンスを維持し、建学の精神に基づいて大学の特性を活かして教育や研究を継続していくこと、そして社会からリスペクトされ超高齢社会の医療に多面的に対応できる様々な歯科医師を養成すること、

さらにこれらを伝承できる大学環境の改善を常に進めなければならないことをあらためて感じた年度初めです。

〈筆者の略歴〉

1985 年	東京歯科大学卒業
1991 年	東京歯科大学大学院修了（歯学博士）
2003 年	
~2004 年	UCLA Comprehensive Cancer Center、歯学部口腔外科、医学部頭頸部外科に留学
2011 年 4 月	東京歯科大学 オーラルメディシン・口腔外科学講座 教授
2015 年 4 月	東京歯科大学 口腔病態外科学講座 教授
2015 年 6 月	東京歯科大学 教務部長
2019 年 6 月	東京歯科大学水道橋病院 病院長
2022 年 6 月	東京歯科大学 副学長、千葉歯科医療センター長
	(NPO) 日本口腔科学会 理事長・指導医
	(公) 日本口腔外科学会 理事・指導医
	(公) 日本老年歯科医学会 副理事長・指導医 他



大学のニュース

■北海道医療大学歯学部■

令和6年度大学祭 「第44回九十九祭」を開催しました

第44回目を迎える北海道医療大学大学祭「九十九祭」を6月15日から2日間にわたり開催しました。日曜は午後からあいにくの空模様となりましたが、オープンキャンパスの同日開催も相まってたくさんの方にご来場いただきました。図書館前に設営された特設ステージではタレントをお招きしたスペシャルライブや学生団体による発表が行われ、イートインスペースでは学生有志・キッチンカーによる出店、屋内でも文化系サークルによる学術発表が行われるなど学内各所で賑わいをみせておりました。

北海道医療大学ホームページトピックス
(令和6年6月掲載)

生理用ナプキンの無料提供サービス 「toreluna」を導入しました

本学では、生理用ナプキンの無料提供サービス「toreluna」を導入しました。当別キャンパス内13か所に設置されております。



北海道医療大学ホームページトピックス
(令和6年8月掲載)

創立50周年記念講演会を開催しました

2024年8月31日、本学園創立50周年記念講演会をANAクラウンプラザホテル札幌で開催し、会場278名、オンライン145名、計423名の方々にご出席いただきました。司会は本学心理科学部臨床心理学科卒業生で、フリーアナウンサーとして活躍中の千葉真澄氏が務めました。

講演会は50周年記念事業企画委員長の和田副学長による開会の言葉から始まり、鈴木理事長、三国学長の挨拶の後、吹奏楽団による記念演奏がありました。楽団は本学吹奏楽部や卒業生等を中心とした50周年のための特別編成で、看護福祉学部・福祉マネジメント学科長の志水教授の指揮で披露されました。メインの講演では、本学客員教授で2023WBC侍JAPANヘッドコーチを務めた白井一幸氏を講師にお招きし「目的を持って生きる」をテーマにお話いただきました。学園がチームとして進むべく指針となる有意義なお話を拝聴することができ、今後ますますの学園発展に向けた新たなスタートとして、出席した教職員らは気持ちを引き締めていました。



北海道医療大学ホームページトピックス
(令和6年9月掲載)

本学情報センターで開発した「クラフト AI」が、eラーニングアワードの「文部科学大臣賞」および1EdTech Japanの「特別賞」をダブル受賞しました

2024年11月5日に御茶ノ水ソラシティカンファレンスセンターで「eラーニングアワードフォーラム2024」が開催され、本学情報センターが開発した「クラフト AI」が「文部科学大臣賞」を受賞しました。

クラフト AIは、本学情報センターが独自に開発した個性的な人工知能で、講義映像を与えるだけでクラフト AIがオンデマンド教材を生成するサービスです。

また、学生の学修をサポートする AI エージェントも創り出し、教員が講義中に発話した内容をもとに、学生の質問に対応したり、回答の参考になる講義映像をピンポイントで見つけ出します。

さらに、英語など他（多）言語の発話映像へ変換し、教育の国際化・多様化にも対応させるなど、オンデマン

ド教材の機能は今も進化を続けています。

本サービスは、1EdTech Japan Society から、生成 AI をいち早く製品に生かし、詳細な実証研究を実施した点が評価され、1EdTech Japan の「特別賞」も同時に受賞しました。

クラフト AI が自動生成したオンデマンド教材のサンプルを、本学 DX 推進計画サイトからご体験いただけます。

北海道医療大学ホームページトピックス
(令和 6 年 11 月掲載)

■ 岩手医科大学歯学部 ■

学校法人岩手医科大学葬

本法人名誉理事長・名誉学長 故 小川 彰 先生の学校法人岩手医科大学葬が 6 月 8 日(土)10 時 30 分からトーサイクラシックホール岩手（岩手県民会館）においてしめやかに営まれ、教職員をはじめ学内外から 815 名が参列し、最後のお別れをしました。葬儀会場へのご臨席が叶わない方に向けては、インターネットライブ配信が行われました（368 名視聴）。

法人葬は、葬儀副委員長の小笠原学長による開式の辞で始まり、黙祷の後、葬儀委員長の祖父江理事長が追悼の辞を述べました。続いて、達増拓也岩手県知事、炭山



葬儀委員長祖父江理事長の追悼の辞



参列者による献花

嘉伸日本私立医科大学協会長・東邦大学理事長、吉本高志東北大学第 19 代総長、本間博岩手県医師会長、赤坂俊英岩手医科大学圭陵会長から弔辞が捧げられ、多数の弔電が紹介されました。次に 39 名による指名献花が行われ、祖父江葬儀委員長の挨拶、遺族代表謝辞がありました。正面祭壇には大きな遺影が飾られ、故人を偲んで参列者による献花が行われ閉会となりました。

岩手医科大学報 vol.554（令和 6 年 7 月発行）

お別れの会

法人葬終了後に行われた故 小川 彰 先生を偲ぶお別れの会は、13 時から盛岡グランドホテルにおいて開かれ、237 名の方々が出席しました。お別れの会は、葬儀



受付にて芳名カードを記帳する参列者



トーサイクラシックホール岩手大ホールで行われた法人葬



盛岡グランドホテルで行われたお別れの会

委員長の祖父江理事長による開会の挨拶で始まり、続いて寺野彰日本医学教育評価機構理事長より献杯が行われました。献杯後は、高橋昌造矢巾町長、小笠原邦昭岩手医科大学医学部脳神経外科学講座同門会九樹会長、西島光茂西島産婦人科医院長、山本正徳宮古市長から小川先生との思い出話などについてスピーチがあり、出席者全員で偉大な足跡を残された故人を偲びました。

岩手医科大学報 vol.554 (令和6年7月発行)

オープンキャンパス 2024 が開催されました

7月27日(土)、28日(日)の両日、矢巾キャンパスでオープンキャンパス2024が開催され、岩手県内をはじめ全国各地から高校生や保護者など936名が参加しました。

当日は入学を希望する学部に分かれての学部紹介やミニ講義、体験実習のほか、在学生とのフリートーク、キャンパスツアー、教員との進学相談会等、たくさんの企画が用意されました。

参加者からは「普段の高校生活では経験できないことを体験することができ、非常に実りのあるものとなった」、「充実したキャンパスライフを過ごすことができると感じた」との感想が寄せられました。



歯学部体験実習「歯を削ってみよう！」

岩手医科大学報 vol.555 (令和6年9月発行)

ウェルカム 2024 が行われました

8月3日(土)、歯科医療センターにおいて、歯科医療センターの様々な業務や活動内容を紹介し、見学・体験を通じて歯科医療に興味・関心をもってもらうことを目的に「ウェルカム 2024」が行われました。未就学児のお子さんから中学生までの生徒さんとその保護者の方々が参加し、歯の治療や歯みがき体験、デジタル歯科治療機器の操作体験等の他、夏休みの自由研究の参考になる「夏休み 宿題相談会」も開催されました。

参加者からは「いつも自分がやってもらっている治療

が、難しいものだということがわかった」「もっと歯を磨けば、汚れが取れることを改めて知ることができた」等の感想が述べられ、地域の方々が知識を深める良い機会になったようでした。



歯科治療体験

岩手医科大学報 vol.555 (令和6年9月発行)

■ 奥羽大学歯学部 ■

オープンキャンパス

本学オープンキャンパスは、オンライン開催も含め3回にわたり開催され(7月・8月)、県内外の高校生ら約130名が参加した。清浦有祐学長が教育方針などを語り、瀬川洋歯学部長および押尾茂薬学部長がそれぞれ学部の特徴を紹介した。歯学部ではシミュレーションロボットや人形を使用し、ショック症状のある患者への救命措置体験などが行われた。参加者は、自動体外式除細動器(AED)の使用法や胸骨圧迫の手順を教員から学んだ。薬学部では調剤体験や科学実験などが展開された。また、参加された高校生や保護者の方から質問を受け付けるコーナーが設けられ、本学の教員や在学生が、学業を中心とする様々な相談に応じた。

これらからもオープンキャンパスを通じて、本学の魅力を発信していく予定である。



学内見学の様子



参加者に説明する学生

奥羽大学報 178号 (No.303) (令和6年10月発行)

歯学部学生が郡山市バドミントン大会で入賞

歯学部1年生の戸谷悠人さんが、安積総合学習センター体育館で9月16日(月)に開催された郡山市バドミントン協会主催の第18回秋のバドミントン大会男子ダブルスで第3位に入賞した。



戸谷さんは勉強とクラブ活動の両立、すなわち文武両道を目指した学生生活を送っている。

左から、清浦有祐学長、戸谷悠人さん、川鍋仁教授

奥羽大学報 178号 (No.303) (令和6年10月発行)

TOEIC 高得点者インタビュー 歯学部3年生 槇こなさん

槇さんは、初めてのTOEIC受験(2022年7月)で855点を取得しました。これは医・薬学系学部生の平均489点を大きく上回るスコアです。英語をマスターする環境に恵まれていたわけでもなく、日々の隙間時間を活用して語彙力を強化するなど、地道な努力を重ねて英語力を高めてきた槇さんに話を伺いました。



——英語を学んだきっかけは何ですか。

「初めて英語に触れたのは、小学1年の時ですね。週に1回、家族が英会話教室に通わせてくれたんです。高校3年まで楽しく続けることができました。」

——海外生活や留学の経験はありますか。

「海外生活とか留学とかの経験はなく、ハワイ旅行に行った程度でした。ハンバーガーを注文した時に、かなり緊張したことを覚えています。実家(徳島県)は、外国人を見かけることがあまりないような土地柄でした。両親は日本人ですし、英語に触れる環境としては普通の日本人と同じ感じで、何も特別なことはなかったです。」

——実践されてきた学習方法について教えていただけますか。

「中学では受験英語が中心だったこともあり、主に文法を勉強していました。リスニング力を強化するために、ネイティブの英語をとにかく聴き込みましたね。特に意味のまとまりを意識しました。文法をしっかりと学んだことが、意味のまとまりを把握することに役に立ったと思っています。中学・高校時代は、語彙力強化として

休み時間に単語帳を開いて、毎日3ページ覚えることを目標にしていました。隙間時間を活用できたことが本当に役に立ったと思います。あとは、英語に触れる機会をできるだけ多くしたことです。英語ディベート部に所属して、弁論大会に出場したり、英検に挑戦したり。今でも、ちょっとした時間にYouTubeを眺めたり、洋楽を聞いたりします。」

——今後、歯科医師としてのキャリアに英語力をどのように活用していきたいですか。

「歯科医療分野の最先端の研究を自分の治療に活かすためにも、英語力は不可欠だと思っています。将来、外国人の患者さんを受け入れることができるクリニックを経営したいです。言葉の壁による不安を少しでも和らげることができたらと考えています。」

英語の必要性を認識しつつも、まとまった時間を確保することが難しい医療系の学生にとって、槇さんの隙間時間を有効に活用する取り組みは大いに参考になるのではないのでしょうか。

奥羽大学報 178号 (No.303) (令和6年10月発行)

県中地域市町村歯科保健強化推進 研修会での鈴木史彦教授による講演

8月27日(火)、福島県県中保健福祉事務所主催の2024年度県中地域市町村歯科保健強化推進研修会が鏡石町健康福祉センター「ほがらかん」にて開催され、講師として本学附属病院長の鈴木史彦教授が招聘された。同研修会には県中保健福祉事務所管内の介護施設職員、市町村歯科担当者、市町村高齢福祉担当者、市町村協力歯科衛生士36名が参加した。

演題は「支援者のためのオーラルフレイル対策」で、主催者からの要望により、本年4月に発表されたオーラルフレイルに関する3学会(日本老年医学会、日本老年歯科医学会、日本サルコペニア・フレイル学会)合同ステートメントについて、質問票を用いた評価方法に関す



講演の様子

る解説が行われた。また、オーラルフレイルと全身のフレイルや加齢関連疾患との関係やその予防方法、介護現場で役立つ摂食嚥下リハビリテーションについても話題となった。参加者はメモを取りながら、熱心に聴講していた。

奥羽大学報 178号 (No.303) (令和6年10月発行)

■ 明海大学歯学部 ■

保健医療学部口腔保健学科が 「ホワイトコートセレモニー」を 開催しました

9月28日、保健医療学部では医療従事者としての自覚や責任感を持ち、歯科衛生士をめざし勉学に励むことを目的として1年次を対象に「2024年度保健医療学部ホワイトコートセレモニー」を開催しました。

学生に授与されたホワイトコートは明海大学歯学部同



窓会及び浦安キャンパス同窓会により、学生の歯科衛生士へのモチベーション向上を図ることを目的に贈呈されたものです。学生代表として登壇した今野楓花さんから「知識と技術を磨き、仲間とともに成長し、医療人としての自覚と責任をもった歯科衛生士をめざします」と宣誓がありました。



明海大学ホームページ (令和6年9月掲載)

シエナ大学(イタリア)の学生らが 坂戸・浦安キャンパスを 訪問しました

11月21日、シエナ大学(イタリア)からの研修生2名と引率教員が交換研修プログラム(*)の一環として坂戸キャンパス(歯学部)を訪れました。

歯学部教職員による出迎えの後、研修生らは坂戸学部長と面会、歓迎の意が述べられ、今回で13回目の来日となる引率教員の Prof.Tiziana Doldo とともに、和やか



坂戸キャンパス

な交流のひとつを持ちました。午前は本学教員による講義及び病院見学が行われ、日本の最新の歯科教育についての理解を深めました。歓迎ランチパーティーでは、本学から贈呈された法被姿の研修生たちと和やかに交流する様子が見られました。

2025 年 3 月には本学学生 2 名及び教員のシエナ大学への派遣を予定しております。

また、11 月 22 日には浦安キャンパスを訪れ、本学歯学部生との交流を図りました。中畠裕学長と懇談した後、学内施設や PDI 浦安歯科診療所を見学し、相互の親睦を深めました。

(※) 交換研修プログラム：本学歯学部は国際的な歯科医師を育成することを目的に、費用全額大学負担の海外研修制度を設けるとともに、海外の各国姉妹校から交換研修生の受け入れも行っています。



浦安キャンパス

明海大学ホームページ（令和 6 年 11 月掲載）

明海大学歯学部優秀論文賞授賞式 (坂戸キャンパス)を行いました

11 月 27 日、坂戸キャンパス（歯学部）において明海大学歯学部優秀論文賞授賞式が行われました。

この賞は、主に学内で実施された研究に基づくもので、学術的な特色を持ち、独創性に富む国際的なレベルの優れた研究論文であることが選考基準となっており、多数の応募者から今年度は坂東康彦准教授（組織学分野）、浅見和哉助教（クラウン・ブリッジ補綴学分野）、藤本舞客員助教（歯科矯正学分野）の 3 名が受賞されました。

坂東先生、浅見先生、藤本先生おめでとうございます。



(左から)坂英樹歯学部長、天野修優秀論文賞審査委員長、坂東康彦准教授



(右)浅見和哉助教

明海大学ホームページ（令和 6 年 12 月掲載）

歯学部海外研修 アラバマ大学、空軍軍医大学

歯学部からアラバマ大学バーミングハム校（アメリカ）、空軍軍医大学（中国）にそれぞれ 5 人の学生が海外研修に派遣された。本学では建学の精神に基づき、国際未来社会で活躍し得る有為な人材の育成のため、毎年多くの学生を派遣している。現地ではインプラント手術において埋入操作を補助するロボットや、多くの最先端の歯科医療機器による治療や実習を見学するなど、日本とは異なるアメリカや中国の最新の技術を学んだ。また、同年代で歯科医師をめざす現地の学生との交流により、共感するとともに、お互いにより刺激を受け、高め合う貴重な機会にもなっている。

本学歯学部は今年度 10 月までに海外協定校 9 校中 7 校への派遣を実施、2025 年 3 月にはタフツ大学（アメリカ）、シエナ大学（イタリア）の 2 校への派遣を予定



アラバマ大学バーミングハム校での研修の様子

している。

【研修期間】

- ・アラバマ大学バーミングハム校
10月16日～10月26日（11日間）
- ・空軍軍医大学
10月13日～10月20日（8日間）

MEIKAI NEWS LETTER 第257号（令和7年1月発行）

■東京歯科大学■

2024年度解剖諸霊位供養法会執行

2024年11月6日(水)午後2時30分より、水道橋校舎新館血脇記念ホールにおいて、2024年度解剖諸霊位供養法会が執り行われた。解剖諸霊位供養法会には、ご逝去された故人様のご遺族と大学幹部、短期大学幹部、大学関係者、東京歯科大学白菊会会長、歯学部第2学年学生が参列した。

本学開設以来、歯科医学教育と研究のため、尊いご遺志を持って献体いただいた4千有余柱の諸霊位に対し、深く感謝の意を捧げご冥福をお祈りした。また、真珠院導師により誦経が行われ、一戸達也学長が祭文を奉読し



解剖慰霊祭の様子



祭文を読む一戸学長

たのち参列者による献花が行われた。続いて学生を代表して第2学年の原田百菜さんより挨拶があり、次にご遺族代表よりご挨拶をいただき、本年度の解剖諸霊位供養法会は滞りなく終了した。

その後、ご遺族ならびに大学関係者が真珠院（文京区）へ墓参し散会となった。



学生代表献花



学生代表原田百菜さんの挨拶

東京歯科大学広報 第315号（令和6年12月発行）

東京歯科大学研究プロジェクト （ウェルビーイングプロジェクト） 共催シンポジウム開催

2024年10月19日(土)午後1時より、水道橋校舎新館血脇記念ホールにて開催された第318回東京歯科大学学会において、東京歯科大学研究プロジェクト（ウェルビーイングプロジェクト）共催シンポジウムが開催された。本研究プロジェクトでは、関連分野の有識者による共催シンポジウムを行うことで、口腔機能維持・改善に関連する最先端の基礎的・臨床的な知識を学ぶ機会を設け、プロジェクトのさらなる活性化を図っている。

今回のタイトルは「味覚の理解深化による口腔機能の維持と改善 ―「味」の科学が拓くウェルビーイング社会―」である。味覚は、食の楽しみによる心の豊かさをもたらすことはもとより、生命維持に関わる摂食嚥下

機能に關与する重要な機能である。したがって、生涯にわたる正常な味覚機能の維持は口腔からのウェルビーイング社会の実現に極めて重要なテーマである。そこで本シンポジウムでは、味覚機能のメカニズムを基礎および臨床研究の観点から紐解き、その理解を深めることを目的として、本領域のエキスパートによる講演が行われた。片倉 朗副学長による総合司会のもと、生理学講座の澁川義幸教授と歯科放射線学講座の後藤多津子教授が座長を担当された。一戸達也学長による開会の辞の後、下記の先生方からご講演いただき、活発な質疑応答が繰り広げられた。講演後、山本 仁副学長による閉会の辞で締めくくられた。

参加者 100 名以上（会場とオンラインの合計）と大盛況であり、本研究プロジェクトのさらなる躍進が期待できる有意義なシンポジウムとなった。

1. イントロダクションー味覚とは何か？

…………… 澁川義幸教授（東京歯科大学生理学講座）

2. 高齢者におけるうま味感受性維持の重要性

…………… 佐藤しづ子助教（東北大学病院総合歯科診療部／口腔内科リエゾンセンター副センター長／東北大学大学院歯学研究科口腔病態マネジメント歯学講座助教）

3. 脂肪味の発見から栄養センシングと健康のつながりを考える

…………… 安松啓子教授（東京歯科大学短期大学）

4. 味覚刺激により生じる快感と嫌悪感を担うマウス脳の神経細胞

…………… 田中大介講師（東京科学大学大学院医歯学総合研究科認知神経生物学分野）

5. 医科－歯科連携を活かした「美味しい」減塩・オーラルフレイル対策

…………… 水田栄之助部長（山陰労災病院循環器内科）

6. 塩味の分子細胞メカニズム

…………… 樽野陽幸教授（京都府立医科大学大学院医学研究科細胞生理学）

The 3rd "Silk Road Cup" International Clinical Skills Exchange Event for Dental Students に参加

2024 年 10 月 13 日(日)から 18 日(金)の 6 日間、第 5 学年の石坂大昂さんが、クラウンブリッジ補綴学講座の四ッ谷 護講師引率のもと、本学と姉妹校協定を締結している中国・西安市の空軍軍医大学第三附属医院（AFMU）が主催する The3rd "Silk Road Cup" International Clinical Skills Exchange Event for Dental Students に本学学生代表として参加した。

現地では、本学名誉教授の薬師寺 仁先生と空軍軍医大学口腔医学院小児歯科学講座教授であり、本学小児歯科学講座客員教授の王 小競先生に帯同いただいた。AFMU 訪問では、牛 麗娜院長をはじめする大学幹部の歓迎セレモニーがあり、その後、AFMU の教育施設および研究施設の見学を行った。続いて、AFMU の趙 鈺民教授が監修し設立した国際口腔医学博物館の見学を行った。Silk Road Cup を運営する AFMU の教職員とも交流を深めながら、AFMU の診療室を中心に見学も行った。

International Clinical Skills Exchange Event は Xi'an Qujiang Convention and Exhibition Center にて開催され



AFMU 大学幹部の先生方からの歓迎セレモニーの様子



Best Performance Award を受賞した石坂さん(中央)

た。参加校は中国国内の30大学と海外招待の4か国（日本、スリランカ、スペイン、香港）4校であった。技能課題は、「支台歯形成」「ラバーダム下インレー窩洞形成」「口腔内での切開・縫合」をそれぞれ25分で、「AEDを用いた心肺蘇生法」を8分で実施するものであった。前日打ち合わせには日本語で対応できるスタッフもあり、設置器具の使用方法について念入りに確認することができたため、石坂さんも戸惑うことなく技能課題に集中することができた。最後に海外招待校参加者全員に Best Performance Award が授与された。

このような学生のための海外学術交流は、歯科医療に必須の技能教育を考える上で非常に有意義なイベントであった。



挨拶をする四ツ谷講師



技能課題技能課題(口腔内縫合)実施の様子

■昭和大学歯学部■

鷺沼キャンパス整備工事地鎮祭

9月18日、昭和大学鷺沼校地にて、昭和大学鷺沼キャンパス整備工事地鎮祭を執り行いました。

この鷺沼キャンパスは令和9年4月1日より、医学部・歯学部・薬学部の2・3年次と4年次の一部、保健医療学部の2～4年次、助産学専攻科の学生約2,000人が学ぶ予定です。

鷺沼キャンパス整備の実現により、本学の特色である学部連携教育およびチーム医療教育のより一層の充実を図ります。



小口理事長、久光学長による鍬入之儀



鷺沼キャンパス イメージ図

<鷺沼キャンパス整備計画概要>

- ・建設地：神奈川県川崎市宮前区鷺沼 4-4-1
- ・主要用途：教育施設（大学）
- ・敷地面積：約 36,800㎡
- ・容積率：約 100%
- ・建物階数：地上 3 階建
- ・最高高さ：約 10m
- ・着工（予定）：令和 6 年度
- ・竣工（予定）：令和 8 年度

SHOWA UNIVERSITY NEWS（昭和大学新聞）

第 622 号（令和 6 年 11 月発行）

富士吉田キャンパス新実習棟 建設工事地鎮祭

11月8日、昭和大学富士吉田キャンパスにて、富士吉田キャンパス新実習棟建設工事地鎮祭を執り行いました。令和8年4月の使用開始を目指して、いよいよ本格的な工事が始まります。

本学の大きな特徴である、「初年次全寮制教育」を担う富士吉田キャンパスの学習環境の更なる向上を図ります。

＜富士吉田キャンパス新実習棟設計概要＞

- ・延床面積：2633.27㎡
- ・建物規模：地上3階
(1階：形態機能実習室、2階：多目的実習室、
3階：理工学実習室、基礎看護実習室)



小口理事長、久光学長による玉串奉奠



富士吉田新実習棟イメージ図

SHOWA UNIVERSITY NEWS（昭和大学新聞）
第 623 号（令和 7 年 1 月発行）

北京大学口腔医学院との学部間協定 更新

10月30日、北京大学の学部長等が旗の台キャンパスを訪れ、馬場一美歯学部長への表敬訪問、および学部間協定更新に伴う調印式を行いました。

調印式では、出席者の紹介から始まり、両者の教育の取り組みの紹介等を行った後、馬場一美歯学部長と Dr. Xuliang DENG が協定書に署名しました。

今後、学生交流や教育職員の相互交流を予定しています。



協定締結の様子
(左から、Dr. Xuliang DENG、馬場一美歯学部長)



SHOWA UNIVERSITY NEWS（昭和大学新聞）
第 623 号（令和 7 年 1 月発行）

■ 日本大学歯学部 ■

既卒生に対する国家試験合格支援活動について

国家試験合格支援活動小委員会では、3月の国家試験解説動画の配信をはじめ、臨床研修歯科医のマッチング支援、必修対策ミニ講義、学内外講師による国家試験特別講義、既卒生の希望に合わせた特別実習等を行っています。また、委員一人が6～7名の既卒生を担当し、質問事項への対応や国家試験願書作成のアシストなど、個々に寄り添った対応を行っています。年末年始には会議室を開放して休暇中でも勉強できる環境を整えるなど、国試直前まで全力でサポートしています。



桜歯ニュース 第223号（令和6年7月発行）

■ 日本大学松戸歯学部 ■

本学部2年次生が SCRP 日本代表選抜大会で優勝

日本歯科医師会主催の令和6年度スチューデント・クリニシャン・リサーチ・プログラム（SCRP）日本代表選抜大会で、本学部2年次生ジベク・アイデンさんが、「新素材：グルカン依存性口腔疾患予防用光触媒の開発」の演題で発表を行い、参加した全20校の中で見事に優勝しました。なお、優勝したジベク・アイデンさんは、令和7年3月に予定されている国際歯科学研究学会米国部会（AADOCR）主催学術大会（米国ニューヨーク市）において日本代表として発表する予定です。

松戸歯ニュース 第187号（令和6年9月発行）

国際歯科学研究会日本部会（JADR）総会・学術大会で Morita Student Award を受賞

4年次生 植松 俊吉

この度、第72回国際歯科学研究会日本部会（JADR）総会・学術大会において、「Identification of regulating signals in *Streptococcus mutans* for oral dysbiosis」について発表をし、記念すべき第1回 JADR/Morita Student Award（The 1st prize）を受賞いたしました。

私は口腔内バイオフィルム（BF）の研究に興味を持ち、口腔内BFと誤嚥性肺炎や感染性心内膜炎などの全身性疾患とのメカニズムを解明し予防法について検討を行いました。

Streptococcus mutans 及び *Staphylococcus aureus* は誤嚥性肺炎や感染性心内膜炎などの全身性疾患の起因菌であるという報告がありますが、感染するメカニズムや予防策は不明でした。そこで、*S.aureus* の口腔内に感染するメカニズムおよび全身性疾患にどのように関与するかの研究を行うこととし、その第一段階で *S.mutans* と *S.aureus* のBF形成実験を様々な塩分濃度で行い、「*S.aureus* の口腔内への感染は *S.mutans* のもつクオラムセンシング（QS）が関与する」と仮説をもとに研究を行いました。結果、*S.aureus* の口腔内への感染メカニズムは *S.mutans* のQSの関与および口腔内の塩分濃度に依存することが示唆されました。

今回のポスター発表は全て英語で行われ、大変緊張しましたがとても貴重な体験となりました。

最後にはなりますが、ご指導くださった感染免疫学講座泉福英信教授をはじめ講座の先生方にこの場をお借りして心より感謝申し上げます。



松戸歯ニュース 第188号（令和7年1月発行）

■ 日本歯科大学生命歯学部 ■

■ 日本歯科大学新潟生命歯学部 ■

歯科と認知症研修講座開催

－ 新潟は道川教授、東京は菊谷教授 －

「にいがた健活講座」が、市内の新潟日報メディアシップで、9月29日に開催された。本学新潟生命歯学部の高齢者医療学の道川誠教授が、「認知症＋脳活」をテーマに歯科疾患とアルツハイマー病との関係について解説し、歯科疾患が認知症の危険因子の一つであり、歯科疾患で認知症のリスクが高まることを説いた。

東京都歯科医師認知症対応力向上研修として、生命歯学部の口腔リハビリテーション多摩クリニックの菊谷武院長が、11月29日に「歯科と認知症～歯科医院で知る、支える認知症～」を講演した。

同研修は、歯科医師と歯科医療従事者 300 名を対象として、web 開催：ライブ配信により実施された。

日本歯科大学新聞 第 694 号（令和 6 年 12 月発行）

姉妹校交換学生

－ 派遣と受入れの総計 451 名に －

日本歯科大学の姉妹校交換学生制度は、学部学生の国際交流の場であり、本学独自の教育プログラムである。1986 年夏にアメリカ・ミシガン大学に学生 6 名を派遣し、同大学から 2 名を受入れたことに始まった。

コロナ禍で 2019 年の派遣・受入れを実施した後、中断していたが、2023 年の台湾の中山医学大学からの受入れと 2024 年の同大への派遣の再開を皮切りに、本年はイギリスのマンチェスター大学からの受入れを再開した。



中山医学大学口腔医学院前、
周明勇理事長(中央)と本学学生(台湾)

これまで、派遣と受入れの総計は、451 名となる。

台湾・台中市の中山医学大学へは、本学から両学部の学生 4 名を、3 月 7 日から 14 日まで派遣した。病院での研修では各診療科を回り、休日には九份や台南を観光した。

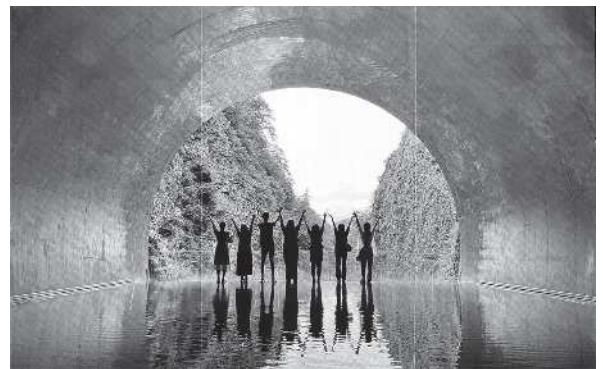
中山医学大学の学生 4 名は、10 月 7 日新潟に到着した。同日のウェルカムパーティー前から医の博物館を含む学内ツアーに参加した。8 日から新潟生命歯学部の臨床系講座や新潟病院の各診療科を回り、在宅ケア新潟クリニックの訪問診療見学にも同行して研修した。

休日には新潟生命歯学部の学生と新潟市内を観光して交流し、15 日に研修修了証を授与された後、16 日に東京へ移動した。

17 日から生命歯学部の臨床系講座と附属病院の診療科を回って見学し、20 日に帰国した。

マンチェスター大学の学生 2 名は、7 月 27 日東京に到着した。29 日のウェルカムパーティーの後、生命歯学部の臨床系講座や附属病院の各診療科を回って研修した。生命歯学部の学生と都内で会食するなど交流した。

4 日に新潟に移動し、新潟生命歯学部の臨床系講座や附属病院の各診療科を回って研修した。6 日に研修修了証を授与された後、新潟生命歯学部の学生と新潟県内、新潟市内を観光して交流し、9 日に新潟を去った。



清津峡トンネル内でバンザイ

日本歯科大学新聞 第 694 号（令和 6 年 12 月発行）

■ 日本歯科大学生命歯学部 ■

ギネス渡邊悦郎先生 内閣府よりエイジレス章受く

先に国際ギネス委員会より、ギネス世界記録に「最高齢の歯科医師（男子）」として認定・登録された渡邊悦郎先生（40回卒・山梨県）は、内閣府より令和6年度エイジレス・ライフ実践者として、エイジレス章を授与された。

エイジレス・ライフ実践者とは、年齢にとらわれず自らの責任と能力の下で、生き生きとした生活を送る高齢者をいう。

晴れの授与式は、9月24日に山梨県庁において挙行され、渡邊先生に書状・記念楯が授与された。

日本歯科大学新聞 第694号（令和6年11月発行）

倉治講師 受賞

生命歯学部歯周病学講座の倉治竜太郎講師は、11月1日の第110回アメリカ歯周病学会2024年大会において、論文「Nishin a probiotic bacteriocin mitigates brain microbiome dysbiosis and Alzheimer's disease-like neuroinflammation triggered by periodontal disease」J Neuroinflammation. 2023;20(1):228. で、Clinical Research Awardを受賞した。



日本歯科大学新聞 第695号（令和7年2月発行）

■ 日本歯科大学新潟生命歯学部 ■

ハノシゴトフェスティバル 3回目の開催 －新潟県内の小中高生が参加して－

新潟生命歯学部と新潟短期大学の共催イベント「ハノシゴトフェスティバル2024 ～めざせ！ハノシゴトマスター!!～」が、6月30日に新潟キャンパスにおいて実施された。

歯やお口に関する仕事について、広く知ってもらいたいという目的で、新潟県内の小学生・中学生・高校生を対象として、66組140人の大勢の方に参加いただいた。

三回目の開催となる今回のイベントでは、体験実習を①歯科衛生士編（PMTC）、②歯科技工士編（印象採得＋石膏）、③歯科医師編（シーラント＋CR充填）の三つに分けて行った。コロナ禍の22年に開始されたこともあり、これまでは、新潟病院に参加者の立ち入りを許可することができなかったが、今回は新潟病院4階の小児・矯正歯科診療室を、体験実習の会場として使用することができた。

その他にも、医の博物館ミュージアムツアー、ハノセカイの道具展示、白衣を着て自由に撮影ができるフォトスポット、スタンプラリーによる景品交換など、参加者に楽しく学んでもらえるように、多くのプログラムを準備した。悪天候にも関わらず、各会場において楽しそうな声が響き渡った。

新潟キャンパスでは、歯科に関わる三つの職種である歯科医師、歯科衛生士、歯科技工士を、一般の方が受け入れやすいように、「ハノシゴト」とカタカナで表記した。ハノシゴトのムック本、WEBサイトを用いて、積極的に広報を行っている。

今回のハノシゴトフェスティバルも、「ハノシゴト」の一環として、入試広報委員会の広報部会の教職員が中心となって企画した。新潟病院歯科衛生科の歯科衛生士、歯科技工科の歯科技工士、新潟生命歯学研究科の大学院生、および新潟短期大学歯科衛生学専攻の専攻科生の協力を得て開催に至った。

こうした広報の背景には、歯学部の実定員割れや歯科医師国家試験の難化などにより、将来の歯科関係の仕事に不安を持つ保護者や高校生が増えているという現状がある。それだけでなく、小児のう蝕罹患率の減少によって、歯を削られたことがないという小児が増えたことで、いわゆる「歯医者さん」の仕事が見えなくなっている、という社会現象も大きく関与している。

この状況を踏まえて開催されているハノシゴトフェス

ティバルには、毎年ご参加いただいているリピーターのご家族、このイベントに参加したことで、歯磨きに興味を持ったというお子さん、また、ここでの学びが将来の進学の実践になればと期待する保護者の方と、「ハノシゴト」を前向きに捉えてくださる参加者が少なくない。

広く「ハノシゴト」を周知し、歯科に携わる職業を目指す若い世代が増えることへの期待がないわけではないが、それは直接的な目的ではない。この活動を続けることによって、歯科界全体を活性化する。これが将来に繋がっていくのではないだろうか考える。

また、新潟短期大学では、令和 7 年 4 月に歯科技工学科を開設予定である。就業歯科技工士の高齢化、および歯科技工士を目指す若者の減少により、労働力不足という問題が表面化してきた昨今、そこに歯止めをかけるべく、本学は歯科技工学科の設置に踏み切った。この歯科技工士問題に関しても、「ハノシゴト」にかかる期待は大きい。



病院の診察室で体験実習の説明をうける

日本歯科大学新聞 第 692 号（令和 6 年 8 月発行）

■ 神奈川歯科大学 ■

「ピンクリボンライトアップ 2024 in かながわ」に参加

2024 年 10 月 1 日(火)、乳がんの早期発見・検診率向上をアピールするイベント「ピンクリボンライトアップ 2024 in かながわ」に初参加し、18時から21時までキャンパスセンターをピンク色にライトアップしました。

「あなたとあなたの大切な人を乳がんで失わないように願いを込めて」というスローガンは、“全てのものに対する慈しみの心と生命を大切に「愛の精神」の実践」という本学の建学の精神に沿うもので、学生・教職員も参加した点灯式では、鹿島理事長が「本学のこの取り組みがピンクリボン啓発の一助になれば」と挨拶されました。

2024 年 1 月に本格稼働したキャンパスセンターは、カラーコンクリートを使用した外壁の「トワイライトビ

ンク」が特徴で、四季折々の光の角度や降雨によって、その表情を変化させます。今回のピンクのライトアップとの調和はとても美しく幻想的で、近くを通りかかった多くの方が写真に収めていました。



学校法人神奈川歯科大学新聞 第 51 号（令和 7 年 1 月発行）

KDU キャンパスセンターが「The Architecture MasterPrize 2024」受賞作品に



本学キャンパスセンターの設計を手掛けた株式会社 Atelier MEME の八木敦之氏が「The Architecture MasterPrize 2024」の建築デザイン-教育施設部門-で受賞しました。この賞は、建築・デザイン・都市計画などの分野における優れた作品に与えられる国際的な賞で、キャンパスセンターのデザインが評価されたことは本学にとっても非常に喜ばしいことです。

学校法人神奈川歯科大学新聞 第 51 号（令和 7 年 1 月発行）

横須賀ロータリークラブ主催「ポリオ根絶募金活動」に参加

2024 年 11 月 3 日(日)、昨年に続き、横須賀ロータリークラブ主催の「ポリオ根絶募金活動」にボランティアとして参加しました。ロータリークラブは様々な社会奉仕に取り組んでいます。ポリオの根絶に関しては、1979 年にフィリピンの子どもたちに予防接種を開始して以来、現在まで活動を継続し、全世界で発症率が 99.9%まで減少させることに貢献しています。

本学からは、看護学科の学生 4 名と教員 4 名、職員 3 名の合計 11 名が参加しました。募金もさることながら、ポリオという病気やその根絶に向けた取り組みを知っていただく事も目的の一つです。参加した学生たちは、道行く方々に笑顔でパンフレットを手渡し、積極的に声をかけて募金活動と周知活動に協力しました。

寄附金は、ポリオ根絶のためのワクチンの予防接種に使用されます。



学校法人神奈川歯科大学新聞 第 51 号 (令和 7 年 1 月発行)

世界の「デンタルドール」寄贈展示

このたび、本学名誉教授の伊藤春生先生と、伊藤先生のご息女で本学 16 回生の伊藤由美先生がコレクションされていた世界の「デンタルドール」約 100 点をご寄贈いただき、キャンパスセンター 1 階の教学部カウンター前の壁面に展示しました。

ご寄贈いただいたコレクションは、街中の路面店で購入されたものからデザイナーが手掛けた「世界に一つだけの人形」まで、歯科に関連するさまざまな国の人形が集められています。どれも魅力的で国際色豊かな見ごたえのある作品ばかりです。ぜひ足をお運びいただき「A World Tour Through the Dentist Doll Collection」をお楽しみください。

最後に、デンタルドールとお別れの際、「我が子が嫁ぐ心境」と表現された伊藤由美先生へ、大切に保管させていただくとともに、心より感謝申し上げます。



学校法人神奈川歯科大学新聞 第 51 号 (令和 7 年 1 月発行)

■鶴見大学歯学部■

歯学部附属病院 夜間火災想定消防訓練

6 月 11 日(火)16 時から歯学部附属病院において、当直歯科医師、看護師などを中心に、入院病棟における夜間の火災発生を想定した自主訓練が実施された。訓練では、初期消火から病棟の入院患者の安否確認、避難誘導と 10 分足らずで屋外への避難を完了することができた。

訓練としてはマニュアルに沿った誘導手順が共有されていることが確認できたが、昨今の災害等をふまえ、夜間発災時の避難誘導人員をどのように確保するか、今後の課題となっております。

(病院事務部 事務課 記)



鶴見大学報 第 445 号 (令和 6 年 7 月発行)

塩崎一成准教授 第 37 回一般社団法人日本顎関節学会 ポスター賞を受賞

7 月 13 日(土)～14 日(日)に開催された第 37 回一般社団法人日本顎関節学会総会・学術大会(あわぎんホール:徳島市)にて、本学歯学部解剖学講座塩崎一成准教授がポスター賞を受賞されました。演題名「咀嚼筋膜・腱



膜過形成症の評価と解剖学的再検討」で、肉眼解剖と画像解剖との比較検討について発表し、ポスター賞（基礎系）で優秀賞に選ばれました。なお、日本顎関節学会のポスター賞は選考委員会による投票で選出されます。

（歯学部口腔顎顔面放射線・画像診断学講座
五十嵐 千浪 記）

鶴見大学報 第 446 号（令和 6 年 10 月発行）

戸田（徳山）麗子講師 第 78 回 NPO 法人日本口腔科学会 学術集会優秀ポスター賞を受賞

2024 年 7 月 20 日～21 日に東京大学本郷地区キャンパスで開催された第 78 回 NPO 法人日本口腔科学会学術集会において、本学歯学部口腔内科学講座の戸田（徳山）麗子講師が優秀ポスター賞を受賞し、表彰された。対象となった発表は「新規シリカ系コーティング技術による義歯表面への抗菌性付与とその維持に関する検討」であり、義歯使用者に生じるトラブルの原因となる病原性微生物の付着と増殖に対する予防および治療法として、抗菌性物質を担持した柔軟性を特徴とする新規シリカ系コーティングを義歯表面に施すことで義歯表面に抗菌性を付与することに成功した。このコーティング薄膜は、実際に PMMA 表面での *Candida albicans* の付着および増殖を阻止することが証明された上、物性試験（FT-IR、¹H-NMR、X 線反射率法、中性子反射率法等）の結果から、義歯表面に数年維持され、かつ担持させた抗菌性物質も数年かけて徐放されることが証明された。本研究結果はこれまでに類を見ない画期的な義歯表面処理法を開発した成果であることが高く評価された。今後の臨床応用により多くの義歯使用者の健康維持・増進に貢献することが期待される。

（口腔内科学講座教授 里村 一人 記）

鶴見大学報 第 446 号（令和 6 年 10 月発行）

能登半島地震におけるボランティア活動報告

～東日本大震災からつながる支援の輪～

鶴見大学学生ボランティアチームは 2011 年の東日本大震災、および 2016 年の熊本地震に際して、学生を中心とし教職員、OBOG、他大学とも協力し被災地の子どもたちのための居場所をつくる学習支援活動「学びーば」を展開してまいりました。本年元旦に発災した能登半島地震においても教職員、本団体 OB により現地調査・支援活動を 1 月 3 日より開始しました。その後も活動を継続し、金沢大学、珠洲市教育委員会と連携して夏季休業期間中の 8 月 19 日～23 日の 5 日間、珠洲市立正院小学校にて「学びーば」が実現しました。

本活動では熊本地震の際に受け入れ側であった元益城町立飯野小学校校長の柴田敏博先生もメンバーとして参加し活動を支援してくださいました。先生は避難所の運営、被災後の校長としての経験を支援活動、防災教育に活かしておられます。本活動でも子どもたちに防災の授業と防災食パッキングのイベントを企画していただきました。

また本活動には宮城県気仙沼市大谷小学校で支援を受ける側の子どもたちであった今は大学生になった二人も参加していただきました。昨年の本団体主催のシンポジウムでも登壇された武蔵野大学の岩槻佳桜さんは石川県輪島市の高校生への支援でも活動されており、正院小学校でも自身の経験を本活動に還元してくれました。大東文化大学の平塚瑛士さんは支援する側に立つのは今回が初めてとのことでしたが、運動する場のない被災地の子どもたちと体育館を走りまわってくれました。今は自身の通う大学で次活動を見据えて準備を進めてくれています。授業の関係などで残念なことに本学学部生の参加は叶いませんでしたが、歯学部附属病院の歯科技工研修科の研修生である平賀天彩さんが五日間の全日程で参加し、子どもたちに義歯に触れてもらい、歯科技工士のお仕事を紹介するなど活躍しました。

元旦の発災より八か月が経過していますが石川県下で公費解体・自費解体が完了した建物は一割程度、中でも一か月孤立していた珠洲市は復興どころか復旧できていない地域がまだあります。正院小学校でもガスは不通、水道管破損により水が使える階は限られるため屋外にトイレカーが設置されております。近隣の小学校には校内に避難されておられる方がおられ、自衛隊によるお風呂の支援や避難者を対象とした炊き出し支援も 8 月まで継続されていきました。正院小学校と市教育委員会からは本活動の継続支援を望まれており次活動実現したいと願っ

ております。児童たちからもまた来て欲しいとの声を頂いております。

最後に、今回の活動も学生支援課をはじめ、学内の多くの方々よりご支援を頂きました。この場をお借りして関係する皆様に厚く御礼を申し上げます。能登半島もまた復興への道のりは長く険しいと感じております。今後ともご支援ご協力を何卒よろしくお願い申し上げます。

(鶴見大学歯学部口腔リハビリテーション

補綴学講座(高齢者歯科部門)非常勤講師、
学びーば実行委員会 現地調整担当 石川 達哉 記)



防災食のつくり方を説明する熊本の柴田元校長



小児用義歯を見せながら説明する平賀さん

鶴見大学報 第446号(令和6年10月発行)

■松本歯科大学■

中国 河北医科大学で学生が 臨床実験

中国の歯科医療における最先端の技術を学ぶ

10月9日(水)から15日(火)にわたって本学姉妹校である河北医科大学で、第5学年の箕浦史絵菜さん、千葉紗記さん、加藤聖也君、堀内資之君、宮田星南君、鄭雨承君^{シヨウ}の6人が臨床実習プログラムに参加した。学生を代表して、箕浦さんが体験を通して得た学びを報告する。

河北医科大学口腔医院では、口腔外科、保存科、歯周病科、歯内療法科、補綴科、インプラント専門科、口腔粘膜科、小児歯科、矯正科、放射線科、そして病棟などを回らせていただきました。それぞれの科で担当の先生方から丁寧な説明を受け、中国の歯科医療における最先端の技術を学ぶことができました。特に印象的だったのは、女性の歯科医師が全体の約7割を占めている点です。多くの女性歯科医師が活躍しており、先生方の丁寧かつ迅速な診療に感銘を受けました。

また、最先端の医療技術にも触れる機会がありました。特に、ロボットを併用したインプラント手術の見学は、私にとって非常に衝撃的でした。精密さとスピードを両立させる技術に、未来の歯科医療の可能性を強く感じました。この素晴らしい経験は、私の将来において非常に大きな財産になると確信しています。

(第5学年 箕浦史絵菜)



歯科実習用人型ロボット(通称:SIMROID)に
中国語で問診する鄭君

Campus Today 第490号(令和6年11月発行)

Work is Life ～仕事を通じて成長を実感～

NHK 長野放送局長に聞く

11月21日(木)、本館7階講堂において、松谷豊講師(日本放送協会長野放送局長)を迎えて、歯学部全学生を対象とした特別講演会が開催された。学生約400人に加えて、教職員も第3回FD研修会として参加し、講堂は満席となった。松谷局長は、1993年に日本放送協会(NHK)に入局、政治報道を中心に仕事をされてきた。2021年には報道局取材センター政治部長、2023年に長野放送局に赴任された。

松谷局長のスーダン紛争における取材経験は大変印象深いお話であった。健康状態を悪化させる厳しい生活環境の中でのたった一人での取材、現在のような通信技術が無い状況での日本への映像伝送の困難、報道業務の任務の重要性を痛感させられた。長野放送局に赴任されてからは、北海道に次ぐ市町村数である長野県内77の自治体をすべて訪れ、それぞれの地域の特徴や課題などを把握してきたそうである。

松谷局長からは、「Work is Life」という言葉をいただいた。駆け出しの記者の頃から、ベテラン記者に囲まれながら、プロフェッショナルな報道の仕事に向き合ってきたことが今の人生に繋がっていると強調された。



取材経験を熱く語る松谷局長

Campus Today 第491号(令和6年12月発行)

「よく噛んでおいしく健康に」

歯の健康と全身の健康をつなぐ市民フォーラム

松本歯科大学と日本歯科保存学会が主催し、信濃毎日新聞社が共催する市民公開フォーラム「よく噛んでおいしく健康に」が10月5日(土)、松本市の信毎メディアガーデンで開催された。フォーラムには約130人の市民

が参加し、歯の健康と全身の健康の関係、そして「噛むこと」の重要性について、本学の教授3人が講演を行った。生化学講座の宇田川信之教授は「歯を支える歯槽骨の基礎的知識」について講演した。

続いて、歯科保存学講座(歯内)の増田宜子教授が「知っていますか? 歯の根の治療の最先端」と題し、歯の構造や疾患、最新の治療法について解説した。

最後に、総合歯科医学研究所の増田裕次特任教授が「カムカムメニューって何?」と題して、噛むことを楽しむ食事「カムカムメニュー」を提案した。

フォーラムの後半では、信濃毎日新聞社の飯島裕一特別編集委員が進行を担当し、歯科医療や予防医療についてのパネルディスカッションが行われた。参加者からは日常的な歯のケア方法や、歯科医に相談すべきタイミングなどの質問が寄せられ、講師陣が丁寧に回答した。パネル討論を通じ、口腔ケアの重要性や歯科医療の最新技術に対する理解が深まる場となった。



パネルディスカッションする本学教授と飯島編集委員(左)

Campus Today 第491号(令和6年12月発行)

元宝ジェンヌの^{あかしれいま}朱紫冷真さんが特別講義

伝わるコミュニケーション力を指導

11月12日(火)、赤地憲一特任教授による歯学部1年生オープンセミナーⅡ「歯科医師としてのコミュニケーション力」の授業が講義館105教室で行われた。今回特別講師として元・宝塚歌劇団星組男役の朱紫冷真さんが登壇した。朱紫さんは2023年春に宝塚歌劇団を退団し、地元長野県に拠点を移して現在は地域の健康づくりに取り組み活動している。

朱紫さんは長野県篠ノ井出身で、屋代高校2年生時に宝塚音楽学校に挑戦し、23倍という高い競争率を突破して、100期生として入学を果たした。2014年に宝塚歌劇団に入団後、約10年間にわたり男役として活躍された。

講義の冒頭で朱紫さんは、宝塚時代に学んだ「朗らか

に、清く、正しく、美しく」というモットーを紹介し、この理念が自身のコミュニケーションスキルの土台になっていると話された。そして、コミュニケーションにおける表情や姿勢の重要性について具体的な技術と心構えを学生たちに伝授した。特に歯科医師として患者さんと向き合う際には、言葉だけでなく、表情や姿勢を通じて安心感を与えることが重要だと説明された。学生たちは朱紫さんの言葉に真剣に耳を傾け、自分たちが目指す医療人としての在り方を改めて考える機会となった。

講義終了後には、中庭で朱紫さんが宝塚時代の名曲「すみれの咲く頃」を披露。宝塚歌劇団の伝統を感じさせる力強くも美しい歌声が響き渡り、学生たちはその迫力と表現力に感銘を受け、思いがけないサプライズに大きな拍手が送られた。



表情や姿勢についての心構えを講義する朱紫さん

Campus Today 第 492 号 (令和 7 年 1 月発行)

■ 朝日大学歯学部 ■

岐阜県の教育・学術振興に尽力

教育と研究における顕著な功績が評価される

藤田厚名誉教授が、岐阜県の教育・学術振興への顕著な功績が認められ、岐阜県知事表彰を受けました。藤田名誉教授は、1994 年に本学歯学部（口腔生化学講座）に教授として赴任され、2020 年のご退職までの間、長年にわたり本学の発展に貢献されました。2003 年からは歯科衛生士専門学校の校長として、岐阜県内に優れた歯科衛生士を多数輩出されました。

また、研究においても、臨床における課題を生化学的手法で探究し、乳歯と永久歯の交換現象の本態が構造タ



古田肇岐阜県知事(左)から表彰を受ける藤田厚名誉教授(右)

ンパク質分解酵素にあることを明らかにするなど、多くの成果を挙げられました。さらに、その優れた研究活動を基に、様々な学会に所属し、理事や監事等を歴任され、幅広い貢献を続けてられました。

ASAHI UNIVERSITY NEWS LETTER 第 153 号

(令和 6 年 9 月発行)

日本歯科理工学会・学会賞を受賞

長年の教育と研究の功績が評価される

2024 年 4 月 20 日から 21 日にかけて開催された日本歯科理工学会学術講演会において、玉置幸道歯学部長・教授が日本歯科理工学会・学会賞を受賞しました。この賞は、日本歯科理工学会の進歩と発展に著しい貢献をした者に贈られるものです。玉置教授は、多年にわたり歯科理工学の教育と研究において多大な業績を挙げ、学会に貢献したことが認められました。さらに、日本歯科理工学会は玉置教授を名誉会員に選出し、会員証を授与しました。



受賞した
玉置歯学部長・教授

ASAHI UNIVERSITY NEWS LETTER 第 153 号

(令和 6 年 9 月発行)

無償医療援助活動に参加

ラオスでの口腔先天性疾患治療支援活動

2024 年 8 月 26 日から 9 月 1 日にかけて、本学歯学部口腔病態医療学講座歯科麻酔学分野の岸本敏幸講師が、ラオスの口唇口蓋裂児を中心とする口腔先天性疾患患者への無償医療援助・技術指導活動に参加しました。

本活動は、大友克之学長が相談役を務める特定非営利活動法人日本医学歯学情報機構及び特定非営利活動法人日本口唇口蓋裂協会による診療隊によって実施。口唇口蓋裂を有する小児患者に対し、全身麻酔下での手術を無償で提供してきました。



岸本講師(左から二番目)

ASAHI UNIVERSITY NEWS LETTER 第 154 号

(令和 6 年 11 月発行)

■ 愛知学院大学歯学部 ■

歯学部 3 年生・健康栄養学科 4 年生 合同 IPE (Interprofessional Education 多職種連携教育) が開催されました

2024 年 6 月 5 日(水)、14 日(金)、21 日(金)の 3 日間にわたり、藤田医科大学において「アセンブリ III (*藤田医科大学が推奨する多職種連携教育に関する合同講義の呼称)」が開催され、本学歯学部 3 年生、健康科学部健康栄養学科 4 年生が参加しました。

このアセンブリ III には、藤田医科大学医学部 3 年生、医療科学部 3 年生、保健衛生学部 3 年生、日本福祉大学社会福祉学部 3・4 年生、名城大学薬学部 4 年生も参加し、その学生総数は 1,000 名に迫り、全国的に見ても大規模な合同講義となっています。昨年まではコロナ禍の影響を受けてオンラインで実施されていましたが、今年度は対面現地開催となり、164 グループ (1 グループ約 6 名) が 7 会場に分かれ、それぞれ討論・発表を行いました。本年度は「被災住民に対する支援 - 医療福祉系の私たちに何ができるか -」をテーマに、地震による災害を想定した課題について討論を行いました。

これまでの合同講義のテーマは“医療現場”が多かったのですが、“被災現場”においても医療福祉系の専門

性を活かしたチームワークは必要となります。学生達は「豊明市の防災マップ作成」、「発災直後～避難所への支援」、「発災 1 ヶ月後～避難所・被災者への支援」の課題に取り組み、専門職としての働きだけでなく、医療福祉に関わる一学生一個人として、被災現場における知識、役割、考え方について学びました。

愛知学院大学歯学部ホームページ (令和 6 年 7 月掲載)

医療系学科 1 年生合同の IPE (Interprofessional Education 多職 種連携教育) が開催されました

愛知学院大学は大規模総合大学であるとともに医療系学部学科を多く持つことが特色です。

6 月 7 日(金)、歯学部・薬学部・健康科学部 (健康栄養学科)・短期大学部 (歯科衛生学科) の 1 年生 436 名にむけて多職種連携医療教育を実施しました。

学生たちは 4 学部 (学科) の学生混合のグループ (5～6 名) に分かれ、健康に関する日常会話が書かれたシナリオを題材に意見を出し合い、レポートにまとめて発表しました。今年のシナリオは「糖尿病と歯周病を患う高齢独居の女性患者さん」で、口腔に強い愛知学院大学の学生ならでの意見が多く出されました。

1 年生から専門職を意識できるこの授業は将来プロ



フェッショナルとなる学生にとって有意義なプログラムです。本学ではこの取り組みが医療の未来に大きく貢献することを目指しています。

愛知学院大学ホームページ（令和6年7月掲載）

「令和6年度第62回解剖慰霊祭及び返骨式」が執り行われました

令和6年10月4日(金)、楠元キャンパスにて、令和6年度第62回解剖慰霊祭がしめやかに執り行われました。ご遺族、ご来賓及び教職員・学生が参列し、歯学の発展のためご遺体を本学における解剖に献体された故人の御霊に対し、ご冥福をお祈りしました。

続いて、口腔顎顔面外科学講座 後藤満雄主任教授からご遺族の元にご遺骨をお返ししました。



愛知学院大学歯学部ホームページ（令和6年12月掲載）

木村学長と歯学部 前田教授・近藤教授が城内 実 大臣(経済安全保障担当・内閣府特命担当)と会談いたしました

11月29日(金)、木村学長と歯学部の前田初彦教授（口腔病理学・歯科法医学講座）、近藤尚知教授（冠橋義歯・口腔インプラント学講座）は城内 実 経済安全保障担当内閣府特命担当大臣（クールジャパン戦略 知的財産戦略 科学技術政策 宇宙政策 経済安全保障）と特別会談を行い、宇宙歯学の未来を語りました。



愛知学院大学歯学部ホームページ（令和6年12月掲載）

■ 大阪歯科大学 ■

AMED 令和5年度 「優れた医療機器の創出に係る産業振興拠点強化事業」に採択

このほど、国立研究開発法人日本医療研究開発機構（AMED）令和5年度「優れた医療機器の創出に係る産業振興拠点強化事業」分野1：優れた医療機器の創出に係る産業振興拠点として、大阪歯科大学（事業代表者：中嶋正博・大阪歯科大学附属病院長 / 特任教授）が採択されました。

本学の事業テーマは「超高齢社会に対応した歯科口腔医療実現のための医療機器創出・企業育成に係る産業振興拠点の構築」。①歯科大学・附属病院における臨床現場の知識や経験を技術の実現者たる企業と連携し新規開発の気づきを与えるコミュニケーションの場と教育・研修プランを提供できる体制を構築すること（※1）②薬事開発・保険戦略等の出口戦略を見据えた企業への製品化に関する伴走支援の体制を拡充するとともに、開発し

た製品の事業継続性を市販前に検証できる試験的コミュニティ・環境構築を検討すること（※2）— を目的としています。

※1の事業分担者：馬場俊輔・大阪歯科大学附属病院副院長 / 大阪歯科大学医療イノベーション研究推進機構 (TRIMI) 機構長 / 歯学部口腔インプラント学講座主任教授
 ※2の事業分担者：谷城博幸・大阪歯科大学 TRIMI 事業化研究推進センター開発支援部門専任教授

寿命がさらに延長することによって、歯科医療機器・材料にも人生を全うしうるだけの耐久性や交換のし易さなどの工夫や技術改善が求められる昨今。入れ歯やインプラント等の最終的な治療手段に至るまでも、健康な歯を維持することや、早期に歯の異常を検知・診断する技術、歯科修復等の技術により、いかに寿命を延ばすかが重要となっています。歯科口腔ケアの高まりが、若年層での虫歯の減少につながったように、超高齢社会に適應した歯科医療機器・医療材料の開発が望まれる中であって、本学はその実現に向け力を尽くしてまいります。本拠点の進展にご期待ください。



中嶋 正博 病院長 馬場 俊輔 TRIMI 機構長 谷城 博幸 教授

大阪歯科大学ホームページ（令和6年7月掲載）

東大阪市等と包括連携協定を締結しました



大阪歯科大学は、東大阪市、（一社）東大阪市東歯科医師会 及び（一社）東大阪市西歯科医師会と、健康・医療・介護及び福祉分野における研究や医療現場の課題解決のため、東大阪市内モノづくり企業による機器開発

等に係る包括的な連携に関する協定を締結しました。8月19日に楠葉キャンパスで行われた協定式には、野田義和・東大阪市長、橋本孝・東大阪市東歯科医師会長、奥田宗義・東大阪市西歯科医師会長と、本学の川添堯彬理事長・学長、馬場俊輔・医療イノベーション研究推進機構 (TRIMI) 機構長が出席しました。

川添理事長・学長は関係各位への謝辞を述べたうえで「今回の協定を通じて、医療、介護及び福祉機器の創出に向けた開発・事業化が進むことを期待している。地域の健康を守るための活動を一層強化し、具体的な成果を上げていければ」と今後の展望を語られました。

野田市長は、「本市は2016年から医工連携に取り組んでいるが、歯科の分野でもモノづくりの力を生かせるのではないかと考えていた。日本の歯科のイノベーションを東大阪から起こしていきたい」と本協定に対する大きな期待を述べられ、東西歯科医師会長のお二方もそれぞれ東大阪に対する誇りと意気込みを語られました。

馬場 TRIMI 機構長は、協定の趣旨を次のように説明。「東大阪は、古くから日本のものづくりを支えてきたまちとして知られ、医療機器の生産においても重要な役割を果たしている。一方、東大阪の東西歯科医師会は多くの医療機器を実際に使用する立場にあり、現場のニーズの掘り起こしや使用者としての視点からのフィードバックが重要な連携事項となる。本学 TRIMI は医療機器開発における規制対応等、申請に関する支援を担当し、この4者が連携することでより革新的で安全な医療機器の開発が進むことを確信している。」



橋本孝 東大阪市東歯科医師会長、野田義和 東大阪市長、奥田宗義 東大阪市西歯科医師会長（左から）

<連携事項>

- ・東大阪市 医療現場のニーズに応じたモノづくり企業の探索・マッチング支援など
- ・東西歯科医師会 治験受入のサポート・現場ニーズの情報提供
- ・本学 医療機器開発に向けての伴走・承認審査申請の支援など

協定式では4者の代表それぞれから今回の連携に対する高い期待感が窺え、世界に誇れる革新的な医療機器・介護福祉機器の開発が実現する日が非常に楽しみです。

大阪歯科大学ホームページ（令和6年8月掲載）

岩崎剣吾准教授が Asian Pacific Society of Periodontology Meeting で “First Prize” を受賞！

2024年10月17～18日にベトナム・ハノイ市で開催された第15回 Asian Pacific Society of Periodontology Meeting（アジア太平洋歯周病学会）において、「E-Poster Competition」が行われ、本学医療イノベーション研究推進機構（TRIMI）先進医療研究センターの岩崎剣吾准教授が基礎研究分野で“First Prize”を受賞しました。本賞は、同学会で発表された100以上のポスター演題の中から基礎研究と臨床研究の各10件が選出され、さらに発表・質疑応答による審査を経て1位から3位の発表者に授与されるものです。今回受賞となった岩崎准教授の研究発表の演題名は「Differentiation of iPS cells into Periodontal Ligament Stem Cells and Their Potential for Periodontal Tissue Regeneration」（iPS細胞の歯根膜幹細胞への分化と歯周組織再生の可能性）です。

本研究は本学・歯科理工学講座の呉 巧瑠先生、橋本典也教授、並びに東京医科歯科大学の石川烈名誉教授との共同研究として実施されました。歯周病治療の新たな再生療法として、歯根膜から培養される歯根膜幹細胞の移植が研究されていますが、歯根膜幹細胞を得るには患者さんの歯を抜歯する必要があります。適用が難しい場合もあります。岩崎准教授らは、あらゆる組織へ分化する能力を持つiPS細胞に着目し、歯根膜細胞の分泌因子を用いて分化誘導を行うことで、iPS細胞が歯根膜幹細胞と類似した細胞へ分化することを見出しました。分化誘導した細胞は遺伝子やタンパク質の発現パターンにおいて歯根膜幹細胞と一致し、また動物実験へ移植すると歯周組織が顕著に再生されました。これらの結果はiPS細胞を用いた新たな歯周組織再生療法の可能性を示すものと考えられます。受賞にあたり、岩崎准教授は「iPS細胞は再生治療において大きな期待が寄せられている細胞です。今後もこの細胞を用いた歯科治療の実現に向けて

研究を推進したい」と、将来の新治療法開発に向けた意欲を語っています。

大阪歯科大学ホームページ（令和6年11月掲載）

歯学研究科2年生が JADR/GC 学術奨励賞を受賞しました

2024年11月16日（土）・17日（日）に鹿児島県で行われた第72回国際歯科研究学会日本部会（JADR）総会・学術大会において、本学歯学研究科・歯科麻酔学専攻2年の谷口侑里映さんが学会発表を行い、見事 JADR/GC 学術奨励賞を受賞しました。

JADRは、国際歯科研究学会（International Association for Dental Research：IADR）の日本部会で、歯科医学および関連分野の研究の促進を図り、口腔保健の向上に寄与することを目的としている学会です。

今回谷口さんが受賞した JADR/GC 学術奨励賞は、「発表の時点で38歳未満である者」という条件があり、歯学の発展に寄与する若手研究者育成のための賞となっています。多数の応募者の中から事前審査を経て、選拔された22名が英語による発表およびディスカッションを行った結果、今回は谷口さんほか4名が受賞者に選ばれました。

谷口さんの発表演題は「Exosomes from iPS-Derived PDL Cells Promote Osteogenic and Anti-Inflammatory Properties」。iPS細胞由来歯根膜細胞から得られたエクソソームが歯周再生のための骨形成および抗炎症作用に強力な効果を示すことを発表しました。

昔から英語を話す機会が多く、英語を話すことに抵抗はなかったという谷口さんですが、それでも「自分の研究内容を英語で考えて発表、説明するということは想像以上に準備しなければならなかった」とのこと。しかしながら同時に、それが「すごく楽しかった」とも。受賞に関しては、「研究をはじめて2年目の自分が選んでいただけとは思いませんでしたが、研究に対して真剣に向き合って努力していることが評価されたのかもしれない。まだ実感が湧きませんがとても光栄です」と語ってくれました。



2024.11.16 JADR/GC 学術奨励賞 JADR/GC Young Investigator Award

谷口さんを筆頭著者とする今回の研究は、本学の城潤一郎・歯科理工学講座准教授、岩崎剣吾・医療イノベーション研究推進機構准教授、橋本典也・歯科理工学講座主任教授および百田義弘・歯科麻酔学講座主任教授と共同で行われたもので、谷口さんは「研究に没頭する環境を作ってくださった百田先生に感謝しています。橋本先生、城先生、岩崎先生には根気強く情熱的に毎日研究のご指導をいただいております。本当に感謝の気持ちでいっぱいです」と各先生方への感謝の意を示しました。

大阪歯科大学ホームページ（令和 6 年 11 月掲載）

■ 福岡歯科大学 ■

福岡歯科大学学生研究支援プログラム リサーチ・スチューデントが決定

令和 6 年度の福岡歯科大学学生研究支援プログラムにおけるリサーチ・スチューデントが決定しました。

この制度は、普段の講義・実習の先にある「研究」に強い関心をもっている学生を支援するもので、リサーチ・スチューデントが行う研究活動には、研究指導を行う分野に対し 1 件あたり 20 万円を上限として支援金が交付され、充実した研究活動を行うことができます。

令和 6 年度は、6 名の口腔歯学部生がリサーチ・スチューデントに採用され、研究課題に主体的に取り組み、物事の本質を見究める能力を磨いています。



採用されたリサーチ・スチューデント

福岡学園広報誌 Vol.32 No.3（第 123 号）（令和 6 年 7 月掲載）

福岡歯科大学医科歯科総合病院が 各種イベントで無料口腔検診などを 実施

毎年 6 月 4 日～10 日は「歯と口の健康週間」となっており、今年も各自治体の歯科医師会を中心としたお口と全身の健康に関する啓発イベントが行われました。

福岡歯科大学医科歯科総合病院は、各歯科医師会からの要請を受け、伊都文化会館（糸島市）、ららぽーと福岡（福岡市）で開催されたイベントに参加しました。

口腔外科、小児歯科、歯周病科、矯正歯科、口臭クリニック等のスタッフが参加し、累計で 225 名の方々のお口に関する悩みに丁寧に回答しました。



無料口腔検診の様子

福岡学園広報誌 Vol.32 No.3（第 123 号）（令和 6 年 7 月掲載）

福岡市立高等学校を対象とした キャンパスツアーを開催

令和 6 年 6 月 25 日、26 日、28 日の 3 日間で福岡学園キャンパスツアーを開催し、福岡市立の福翔高等学校・福岡女子高等学校・福岡西陵高等学校から 98 名の生徒にご参加いただきました。

福岡歯科大学、福岡看護大学、福岡医療短期大学は令和 5 年度に福岡市立高等学校（4 校）と高大連携協定を締結して以来、高校生が学園へ来学できる機会を定期的に提供しています。

今回のキャンパスツアーでは、各大学や医科歯科総合病院などの見学をし、本学園の雰囲気や魅力を体感してもらいました。

参加した生徒からは「歯科医師や歯科衛生士の仕事の内容についても詳しく知ることができて、将来の具体的なイメージができたのでよかったです」、「看護大学の先

輩に話を聞くことができたので今後の進路の選択肢に入れようと思います」、「教育環境がすごく整っていると思いました」、「夏休みにあるオープンキャンパスもぜひ行きたいと思います」などの声をいただきました。



見学の様子

福岡学園広報誌 Vol.32 No.4 (第124号) (令和6年10月掲載)

話しいただきました。

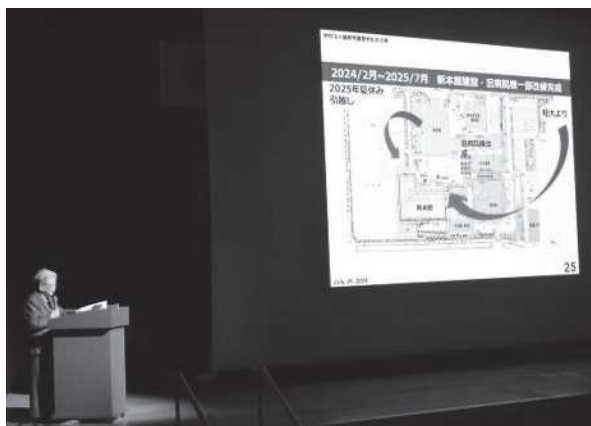
福岡学園広報誌 Vol.32 No.4 (第124号) (令和6年10月掲載)

学校法人福岡学園 開学記念式典を挙行政

令和6年7月26日、50周年記念講堂において、学校法人福岡学園の開学記念式典が執り行われました。

式典には、学内外の関係者約190名が参加し、水田理事長の挨拶に続き、名誉教授称号授与、永年勤続者表彰、福岡歯科大学・福岡看護大学・福岡医療短期大学 最優秀教育改善賞表彰、福岡歯科大学 特待生表彰、福岡医療短期大学 特別奨学生表彰、研究優秀賞表彰、理事長特別賞表彰が行われました。

記念講演では、九州大学大学院医学研究院 二宮利治教授から「60年にわたる地域疫学研究の取組：久山町研究」と題して、久山町研究の歴史や主な成果などについてお



式典の様子

協会役員・部会・委員会名簿

一般社団法人 日本私立歯科大学協会役員名簿

役 職 名	氏 名	所属大学および役職名
会 長	羽 村 章	日本歯科大学生命歯学部特任教授
副 会 長	大 友 克 之	朝 日 大 学 学 長
副 会 長	藤 井 一 維	日 本 歯 科 大 学 学 長
副 会 長	一 戸 達 也	東 京 歯 科 大 学 学 長
専務理事	櫻 井 孝	神 奈 川 歯 科 大 学 学 長
常務理事	高 橋 裕	福 岡 歯 科 大 学 学 長
常務理事	宇田川 信之	松 本 歯 科 大 学 歯 学 部 長
常務理事	福 本 雅 彦	日 本 大 学 松 戸 歯 学 部 長
理 事	川 添 堯 彬	大 阪 歯 科 大 学 理 事 長・学 長
理 事	大久保 力 廣	鶴 見 大 学 歯 学 部 長
理 事	古 市 保 志	北 海 道 医 療 大 学 歯 学 部 長
理 事	宮 田 淳	明 海 大 学 理 事 長
理 事	本 田 雅 規	愛 知 学 院 大 学 歯 学 部 長
理 事	馬 場 一 美	昭 和 大 学 歯 学 部 長
理 事	飯 沼 利 光	日 本 大 学 歯 学 部 長
理 事	瀬 川 洋	奥 羽 大 学 歯 学 部 長
理 事	小 林 琢 也	岩 手 医 科 大 学 歯 学 部 長
監 事	牧 村 正 治	日 本 大 学 名 誉 教 授
監 事	高 橋 偉 茂	朝 日 大 学 内 部 監 査 室 長

(R7.3.31 現在)

教育・研究部会

部会長：宇田川 信之
日本私立歯科大学協会常務理事
松本歯科大学歯学部長

氏 名	大 学 名・役 職 名
古 市 保 志	北海道医療大学歯学部 部長
岸 光 男	岩手医科大学歯学部教務委員長
高 田 訓	奥羽大学歯学部教務委員長
日比野 靖	明海大学歯学部教務部長
山 本 仁	東京歯科大学 副学長
馬 場 一 美	昭和大学歯学部 部長
林 誠	日本大学歯学部学務担当
金 田 隆	日本大学松戸歯学部学務担当
菊 池 憲一郎	日本歯科大学生命歯学部 部長
藤 井 一 維	日本歯科大学 学長
槻 木 恵 一	神奈川歯科大学 副学長
山 越 康 雄	鶴見大学歯学部教務・学生部長
宇田川 信之	松本歯科大学歯学部 部長
玉 置 幸 道	朝日大学歯学部 部長
本 田 雅 規	愛知学院大学歯学部 部長
田 中 昭 男	大阪歯科大学常務理事・副学長・歯学部 部長
稲 井 哲一朗	福岡歯科大学 学生部長

(R7.3.31 現在)

病 院 部 会

部会長：高橋 裕
日本私立歯科大学協会常務理事
福岡歯科大学学長

氏 名	大 学 名・役 職 名
舞 田 健 夫	北海道医療大学病院 副病院長
山 田 浩 之	岩手医科大学附属内丸メディカルセンター歯科医療センター長
鈴木 史 彦	奥羽大学歯学部附属病院長
横 瀬 敏 志	明海大学歯学部病院長
山 下 秀一郎	東京歯科大学水道橋病院長
横 宏太郎	昭和大学歯科病院長
佐 藤 秀 一	日本大学歯学部付属歯科病院長
内 田 貴 之	日本大学松戸歯学部付属病院長
内 川 喜 盛	日本歯科大学附属病院長
戸 谷 収 二	日本歯科大学新潟病院長
井 野 智	神奈川歯科大学附属病院長
小 川 匠	鶴見大学歯学部附属病院長
樋 口 大 輔	松本歯科大学病院長
藤 原 周	朝日大学医科歯科医療センター長
三 谷 章 雄	愛知学院大学歯学部附属病院長
中 嶋 正 博	大阪歯科大学理事・附属病院長
坂 上 竜 資	福岡歯科大学医科歯科総合病院長

(R7.3.31 現在)

経 営 部 会

部会長：大友 克之
日本私立歯科大学協会副会長
朝日大学学長

氏 名	大 学 名・役 職 名
長 原 利 明	北海道医療大学事務局 長
山 本 和 博	岩手医科大学事務局 長
中 山 浩 之	明海大学事務局 長
加 藤 靖 明	東京歯科大学千葉歯科医療センター 参与
倉 口 秀 美	昭和大学学事部 長
井 上 由 大	日本大学歯学部事務局 長
谷 龍 樹	日本大学松戸歯学部事務局 長
北 見 公 一	日本歯科大学 経理部長
若 槻 紀 寿	日本歯科大学法人事務局 長
菅 原 光 則	神奈川歯科大学法人事務局 長
竹 内 康 治	鶴見大学事務局 長
廣 瀬 國 基	松本歯科大学事務局 長
田 中 聡	朝日大学事務局 長
日 比 茂 久	愛知学院大学歯学部次長
中 尾 昌 彦	大阪歯科大学 経理部長
石 橋 慶 憲	福岡歯科大学事務局 長

(R7.3.31 現在)

広 報 委 員 会

委員長：福本 雅彦
日本私立歯科大学協会常務理事
日本大学松戸歯学部長

氏 名	大 学 名・役 職 名
長 原 利 明	北 海 道 医 療 大 学 事 務 局 長
齊 藤 旭	岩手医科大学歯学部教務課長
三 浦 孝 英	奥 羽 大 学 病 院 事 務 長
高 山 裕 子	明海大学歯学部庶務課長
橋 本 貞 充	東京歯科大学広報・公開講座部長
吉 岡 由 貴	昭和大学総務部総務課係員
山 崎 和 彦	日本大学歯学部庶務課長
勝 俣 剛 勇	日本大学松戸歯学部庶務課長
宇 多 美 穂	日本歯科大学生命歯学部庶務部長
本 宮 由比子	日本歯科大学新潟生命歯学部事務部長
中 村 琢 磨	神奈川歯科大学総務部総務課長
宮 崎 輝	鶴見大学総務部総務課長
廣 瀬 國 基	松 本 歯 科 大 学 事 務 局 長
纈 纈 力	朝日大学学事部入試広報課長
真 新 薫	愛知学院大学歯学部事務長
松 村 誠 一	大 阪 歯 科 大 学 管 理 部 長
都 築 尊	福岡歯科大学医科歯科総合病院副院長

(R7.3.31 現在)

受験生確保対策委員会

委員長：福本 雅彦
日本私立歯科大学協会常務理事
日本大学松戸歯学部長

氏 名	大 学 名・役 職 名
古 市 保 志	北 海 道 医 療 大 学 歯 学 部 長
渡 邊 義 典	岩手医科大学入試・キャリア支援課長
瀬 川 洋	奥 羽 大 学 歯 学 部 長
伊 藤 敦	明海大学歯学部事務部長
船 山 雅 史	東京歯科大学教務課長
岩 根 裕 之	昭和大学入学支援課長
中 澤 謙 司	日本大学歯学部教務課長
村 山 賢 是	日本大学松戸歯学部教務課長
中世古 大 介	日本歯科大学東京短期大学事務長
五十嵐 謙 介	日本歯科大学新潟生命歯学部教務部・学生部副部長
青 山 典 生	神奈川歯科大学募集広報部長
栄 角 政 利	鶴見大学入試センター事務部入試課長
宇田川 信 之	松 本 歯 科 大 学 歯 学 部 長
石 本 昭 彦	朝日大学歯学部事務部長
真 新 薫	愛知学院大学歯学部事務長
野 崎 中 成	大阪歯科大学アドミッションセンター長
稲 井 哲一朗	福 岡 歯 科 大 学 学 生 部 長

(R7.3.31 現在)

研 修 委 員 会

委員長：宇田川 信之
日本私立歯科大学協会常務理事
松本歯科大学歯学部長

氏 名	大 学 名・役 職 名
長 原 利 明	北 海 道 医 療 大 学 事 務 局 長
齊 藤 旭	岩手医科大学歯学部教務課長
伊 藤 敦	明海大学歯学部事務部長
田 口 円 裕	東京歯科大学事務局長
小 暮 祐 一	昭 和 大 学 人 事 課 長
佐々木 孝 全	日 本 大 学 歯 学 部 事 務 長
勝 俣 剛 勇	日本大学松戸歯学部庶務課長
田 口 潤	日本歯科大学生命歯学部事務部長
若 槻 紀 寿	日本歯科大学法人事務局長
藤 原 剛	神奈川歯科大学総務部人事課長
平 野 司	鶴 見 大 学 総 務 部 長
廣 瀬 國 基	松 本 歯 科 大 学 事 務 局 長
石 本 昭 彦	朝日大学歯学部事務部長
高 嶋 基 則	愛知学院大学歯学部事務長
清 廣 哲 之	大阪歯科大学法人事務局長
石 橋 慶 憲	福 岡 歯 科 大 学 事 務 局 長

(R7.3.31 現在)

歯科医師臨床研修の在り方検討委員会

委員長：一戸 達也
日本私立歯科大学協会副会長
東京歯科大学学長

氏 名	大 学 名・役 職 名
舞 田 健 夫	北海道医療大学病院副院長
佐 藤 健 一	岩手医科大学歯科医師臨床研修センター長
山 森 徹 雄	奥羽大学歯学部教授
横 瀬 敏 志	明海大学歯学部病院長
平 田 創一郎	東京歯科大学臨床研修委員長
長谷川 篤 司	昭和大学歯学部教授
萩 原 芳 幸	日本大学歯学部卒業後教育担当
野 本 たかと	日本大学松戸歯学部卒業後教育担当
小 川 智 久	日本歯科大学生命歯学部臨床研修委員会プログラム責任者部会長
二 宮 一 智	日本歯科大学新潟生命歯学部臨床研修指導歯科医長
大 橋 桂	神奈川歯科大学附属病院総医局長・研修管理委員長
山 口 博 康	鶴見大学歯学部学内教授
宇田川 信之	松本歯科大学歯学部長
藤 原 周	朝日大学医科歯科医療センター長
小 島 規 永	愛知学院大学歯学部講師
百 田 義 弘	大阪歯科大学学生部長
坂 上 竜 資	福岡歯科大学医科歯科総合病院長

(R7.3.31 現在)

診療参加型臨床実習の在り方検討委員会

委員長：一戸 達也
日本私立歯科大学協会副会長
東京歯科大学学長

氏 名	大 学 名・役 職 名
長 澤 敏 行	北海道医療大学歯学部教授
山 田 浩 之	岩手医科大学附属内丸メディカルセンター歯科医療センター長
鈴 木 史 彦	奥羽大学歯学部附属病院長
横 瀬 敏 志	明海大学歯学部病院長
村 松 敬	東京歯科大学臨床教育委員長
長谷川 篤 司	昭和大学歯学部教授
佐 藤 秀 一	日本大学歯学部付属歯科病院長
深 津 晶	日本大学松戸歯学部付属病院副院長
内 川 喜 盛	日本歯科大学附属病院長
海老原 隆	日本歯科大学新潟生命歯学部臨床実習教育委員会副委員長
山 口 徹太郎	神奈川歯科大学教授
山 本 雄 嗣	鶴見大学歯学部教授
亀 山 敦 史	松本歯科大学教授
河 野 哲	朝日大学歯学部臨床実習センター長
諸 富 孝 彦	愛知学院大学歯学部教務委員長
山 本 一 世	大阪歯科大学教務部長・理事
坂 上 竜 資	福岡歯科大学医科歯科総合病院長

(R7.3.31 現在)

附属病院感染対策協議会

議 長：高橋 裕
日本私立歯科大学協会常務理事
福岡歯科大学学長

氏 名	大 学 名・役 職 名
永 易 裕 樹	北海道医療大学歯学部教授
八重柏 隆	岩手医科大学歯学部教授
小 嶋 忠 之	奥羽大学歯学部講師
星 野 倫 範	明海大学歯学部医療安全執行部長
松 坂 賢 一	東京歯科大学水道橋病院臨床検査部長
マイヤース三恵	昭和大学歯学部准教授
米 原 啓 之	日本大学歯学部学部長
山 口 秀 紀	日本大学松戸歯学部付属病院副院長
石 垣 佳 希	日本歯科大学生命歯学部教授
水 谷 太 尊	日本歯科大学新潟生命歯学部准教授
沢 井 奈津子	神奈川歯科大学教育企画部准教授
大 島 朋 子	鶴見大学歯学部教授
栗 原 祐 史	松本歯科大学教授
安 田 順 一	朝日大学歯学部准教授
宮 地 齊	愛知学院大学歯学部准教授
松 本 和 浩	大阪歯科大学講師
橋 本 憲一郎	福岡歯科大学准教授

(R7.3.31 現在)

賛助会員企業

紹

介

コ

ー

ナ

ー



日本歯科薬品株式会社

日本歯科薬品株式会社は山口県に本社と工場を持っている歯科用医薬品専門メーカーです。

創業90年を越え、国内外の歯科医療の発展に資する医薬品、医療機器、化粧品、部外品をこれまでに数多く生み出して参りました。

同時に「Quality is best（品質こそすべて）」の経営理念のもと、取り扱うすべての製品について医療用医薬品に求められる高水準の製造管理・品質管理を実現しております。これからも研究開発型の企業として、国内外の歯科医療機関に対して、独創的で利便性が高く、かつ、安心・安全にお使いいただける製品を、安定的に供給することを使命とした企業活動を行いたいと考えております。今後とも皆様の一層のご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。



工場外観

代表取締役社長 松尾 守

事業内容

歯科用医薬品、歯科用医療機器、歯科用医薬部外品等の製造・販売および輸出入

〈主な製品〉

口腔洗浄・含嗽剤「ネオステリンググリーンうがい液0.2%」／歯科用局所麻酔剤「スキヤンドネストカートリッジ3%」／歯科用抗生物質製剤「テトラサイクリン・プレステロン歯科用軟膏」／水酸化カルシウム水性ペースト「カルシベックスⅡ」／歯科用覆髄材料・歯科用根管充填シーラ「ニシカチャンネルシーラーBG multi」等

所在地

〒750-0025

山口県下関市竹崎町4-7-24

TEL 083-222-2221

FAX 083-222-2220

<https://www.nishika.co.jp/>

ネオ製薬工業株式会社

弊社は歯科専門の医薬品と医療機器（歯科材料）を製造販売する会社として1954年に設立され、おかげさまで昨年70周年を迎えることができました。

創業当初は現在本社がある渋谷で製造しておりましたが、医薬品GMP対応を機に、45年前工場を東京から長野へ移転。当初メイン製品であった局麻用注射剤の製造を中止し、以後は歯科保存領域の治療薬、充填材料を中心に製品展開しております。

弊社創業者の矢野軍司が、まだ「産学協同」という言葉がない時代に大学の先生方との二人三脚でオリジナル処方（ネオクリーナー、ネオダイナ、ビタベックス等）を開発し、大半の製品が今でも主力製品として歯科医療に不可欠なもののご評価いただいております。

近年、事業を発展させる上で社外とのコラボレーションがますます重要になってきているように思われます。今後とも日本私立歯科大学協会の皆様には、ご指導・ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

代表取締役社長 木瀬 俊彦



長野工場外観

事業内容

歯科用医薬品・医療機器（歯科材料）の開発・製造・販売

所在地

〒150-0012

東京都渋谷区広尾3-1-3

TEL 03-3400-3768

FAX 03-3499-0613

<https://www.neo-dental.com/>

一般社団法人 日本私立歯科大学協会加盟名簿

■加盟大学および学部■

北海道医療大学歯学部
岩手医科大学歯学部
奥羽大学歯学部
明海大学歯学部
東京歯科大学
昭和大学歯学部
日本大学歯学部
日本大学松戸歯学部
日本歯科大学生命歯学部
日本歯科大学新潟生命歯学部
神奈川歯科大学
鶴見大学歯学部
松本歯科大学
朝日大学歯学部
愛知学院大学歯学部
大阪歯科大学
福岡歯科大学

■賛助会員■

(株) シ ラ ネ
(株) ヨ シ ダ
デンツプライシロナ(株)
長田電機工業(株)
(株) 東京技研
(株) ジーシー
吉田精工(株)
(株) 八 甕
サ サ キ(株)
(株) モ リ タ
(株) ニ ッ シ ン
(株) 松 風
(株) モ リ タ 製 作 所
日本歯科薬品(株)
(株) 玉井歯科商店
(株) A D I . G
石福金属興業(株)
沖歯科要材(株)
(株) J M O r t h o
(株) トクヤマデンタル

(株) ミ ク ロ ン
(株) モリタ東京製作所
(株) Y D M
サンメディカル(株)
(株) 田中歯科器械店
医歯薬出版(株)
(株) プイ・エス・シー
エンパワーヘルスケア(株)
メ デ イ ア(株)
(株) メルリックス
大榮歯科産業(株)
ネオ製薬工業(株)
日本歯科企業協議会
(株) アイダ設計
(株) オールデンタルオフィス
(株) 竹中庭園緑化
(株) 東京歯材社
イオンディライト(株)
(株) アトリエMEME
(株) ロ ッ テ

◇編集後記◇

協会広報第89号をお届けします。

今号の巻頭言は、本年6月1日から東京歯科大学学長にご就任される片倉 朗副学長からいただきました。

この場をお借りして、厚く御礼申し上げます。

今後とも、協会広報の内容の充実に努めてまいりたいと思いますので、ご意見・ご要望等がございましたら、協会事務局までお寄せくださるようお願いいたします。

広報委員長（協会常務理事）
福 本 雅 彦

令和7年3月31日発行

日本私立歯科大学協会広報 第89号

発行人 一般社団法人 日本私立歯科大学協会 羽村 章

〒102-0073 東京都千代田区九段北 4-2-9 私学会館別館第二ビル2階

電話 03-3265-9068 FAX 03-3265-9069

協会のホームページアドレス <https://www.shikadaikyo.or.jp>

制作協力：倉敷印刷（株）

「題字」及び「シンボルマーク」について

【題 字】初代会長 白数美輝雄先生の揮毫

【シンボルマーク】協会の英語表記「Japanese Association of Private Dental schools」の頭文字を図案化（初代専務理事 宮田侑先生による）